



【ひと花句会】

● 雪どけに 川のせせらぎ 春の音 (善人)

● 山笑う よだれたらした 石地藏 (トンボ)

● 梅干しが 集いてわびし 梅林かな (昆寿)

ひと花新聞

第44号

平成29年3月1日
 発行 NPO法人釜ヶ崎支援機構
 ひと花センター
 〒557-0016
 大阪市西成区太子
 1-13-15
 電話 06-666497890

ひと花ポシム

3月18日(土)

11~15時

西成区にひと花プロジェクトが誕生して4年目を迎えました。この地域で居場所を拠点とし、そこから単身高齢生活保護受給者のつながりを様々な活動を通じて作ってきました。仲間づくりに始まり、地域の人々、さらに教育、防犯、ボランティア団体といった他機関ともつながりが広がってきました。

つながりがつながりを呼ぶ、今回は「つながりをつくる」をテーマに今までの、そしてこれからの「つながり」について皆さまとともに語りたいと思います。

当日は、ひと花プロジェクト報告のほか、渚屋松太郎さんの落語、ひと花笑劇団公演「愛の小荷物」などおもしろい企画も盛りだくさん。また、ひと花プロジェクトのあゆみを皆で語り合ったり、メンバーによるランチタイムショー、恒例の手作りカレー(カンパ制)も振る舞う予定です。

年度末に向けて何かと忙しい時期ではありますが、皆さまお誘い合わせのうえお越しください。



シニポジウム (二〇一七年)
 今年もシニポジウムの季節になりました。昨年はカミワの一員として、コーヒータカリーの配膳に参加しました。今年もプログラムの中でマジックにて参加します。以前会社で居た時に宴会好きの専務に命令されて、宴会の席でやらされた、むずかしいマジックより種明ししながら社長等の前でやりました。マジックでシニポジウムの参加された人達か、なにかお時間も過してもうらやまです。



落語 渚家松太郎

メンバーによるランチタイムショー

ひと花笑劇団「愛の小荷物」

ひと花プロジェクト報告

ひと花プロジェクトのあゆみ みんなで語ろう

● 卒業式 わが子の姿 母なみだ (善人)

● はっつけよい なにわの春だ 花も咲く (ぐりこ)

● 春一番 吹けどちぢかむ わが心 (昆寿)



釣リバカー代 (35)
浦島太郎再び

浦島太郎の物語は、昔から日本人の心を捉えて離さない。その理由は何だろうか。それは、あの神秘的な海底世界と、不老不死の薬、そして、愛する女性との別れにある。この漫画は、浦島太郎の冒険を、現代風にアレンジして描いている。キャラクターの描き出しも、独特なスタイルで表現されている。

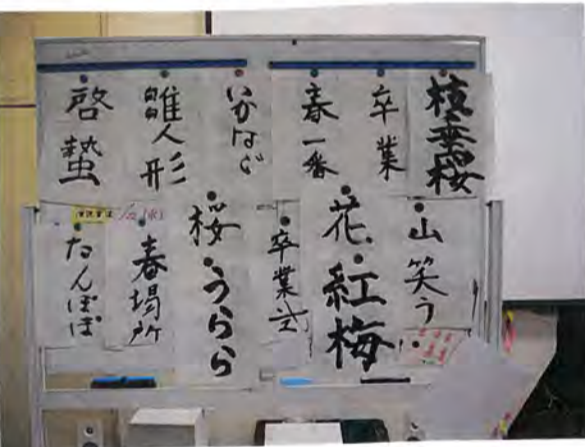
ベルマクポラニア



花が咲く 愛でる心に 花粉症 (みのり)

ベルマクポラニアのようには、春の訪れを感じる。桜の花が咲き始め、暖かい日が続く。この季節は、心も体も元気になる。ベルマクポラニアの活動は、まさにそんな気持ちにぴったりだ。

今回は私を入れて4名のメンバーが参加して作業をおこないました。お一人はポラニアで活動していただいている女子大生の方の作業です。皆さんが楽しんで作業していただき、とても嬉しかったです。ベルマクポラニアの活動は、これからも続けていきたいと思います。



ひと花句会に参加して

いつも来ている方、初めての方も合わせて8人での句会になりました。まず始めに近況を話します。二こと思ったことは、日常が面白いのか、詠句が面白いのか、はきりませんが、皆の笑いをとることの重要性です。

メインの俳句は3月の季語を使って、各自が自由に考えます。清書の作業をほそみ、最後に選句しいいな!と選んだ句を発表し合いました。自分の書いた句を忘れてしまうなんてこともありつた...

ひと花新聞誌の皆さん、これからも傑作に期待して下さいね。次回もお楽しみに...

これからのこの作業が、つづくかぎり、がんばりなうと、思っています。ベルマクポラニアの活動は、これからも続けていきたいと思います。

私にピフタリのカラダ、心から感謝しています。ベルマクポラニアの活動は、これからも続けていきたいと思います。

はるうらら となりの人は 何思う (タイガー) 大好きや 私あなたに つくしんぼ (ハルキ)

ひと花カフェ

二月六日 ちやし寿司
あげだし鳥 ちやわんおし

二月七日 春巻き、中井華スーフ

二月十日 ヒレカツ、ポテトサラダ、たいのアラ汁

二月十七日 カレールイ入付すし

二月十九日 春雨サラダ、アラス汁